

# 学年担任制への移行に向けて1

2025年 2月28日 柏市立富勢小学校 校長 梅津 健志

先日2月19日に行いました、来年度の教育課程創造ワークショップには保護者や地域の皆様に加えて市外の先生や教育委員会からも参加をいただき、様々なご意見をいただきました。その際に来年度の体制としての学年担任制についてもご意見をいただきましたので、複数回に分けて取り組み予定等をお伝えしていきたいと思います。

数回に分けて次の順番でご説明をしていきますので、よろしくお願いいたします。①学年担任制を取り入れる考え方 ②学年担任制をどのように取り入れていくか（各学年の導入に向けたおおまかなスケジュール）③学年担任制を運用していくための校内の取り組み ④既に学年担任制を取り入れた学校の状況や保護者の声 ⑤その他

## 学年担任制を取り入れる考え方

学級担任の扱いは、1891年の「学級編制等に関する規則」が定められてから、小学校では学級担任制が一般的に行われ、教員の配当数についても各学校の学級数に応じて基準数が定められました。（義務標準法）ただし、1つの学級の指導を1人の先生が1年間に渡って指導にすることについては、法的な定めはありません。そこで、文科省は小学校においても教科担任制の導入を進め来年度は中学年にも広げて参ります。その背景には、多様化する子供たちへの対応、教員の働き方の改善などが挙げられています。私としましては、それと同様に、多様化されていく世の中で自分の力を発揮していくためには、様々な人々との関わりが大切であり、子供の頃から多くの関わりを持つことが大切だと考えています。そこで学校の体制としても、子供たちと関わる教員がそれぞれの見方・考え方を通して、子供一人一人のよい面を伸ばしていく教育が行われるようにしていくことが、これからの社会に子供を送り出す学校において大切だと考えており、教員がチームとなって子供を育てる体制づくりが必要と考えています。

さらに子供たちに身につけるべき力として、従来の基本的な学力の重要性和同時に、非認知能力を身につけることが求められ、柏市でも、4つのCとして「見通す力・挑戦する力・関わり合う力・自立する力」を育むことに力を入れています。特にこの非認知能力の育成には、多くの人との関わり、多様な指導者との関わりが大切です。今回は、この非認知能力の富勢小の状況を踏まえながら学年担任制との関係を説明いたします。